

令和5年度第1回名張市障害者施策推進協議会 議事録

日時：令和5年7月6日（木）

午後1時30分から午後3時15分まで

場所：名張市役所 2階 庁議室

○あいさつ

市長挨拶

- ・この度は、ご多忙の中、施策推進協議会の委員を請け負いいただき御礼申し上げます。また、日々様々な形で福祉や行政にご尽力いただいていることも大変感謝している。
- ・名張市では、昨年、「名張市総合計画～なばり新時代戦略～」を策定し、7つの基本施策を設定している。その1つである「ささえる」において、障害者の自立と社会参加に向けて市民の皆様にご協力いただきながら取り組んでいきたい。
- ・第六次障害者福祉計画の策定にあたっては、皆様の意見を頂戴し、実効性のあるものにしていきたい。また、基礎調査の中で障害者本人や家族の悩み、それに対する課題が見えてきた。それについても十分に反映させた内容にしていきたい。

○委嘱状交付式

- ・市長より委嘱状の交付。任期は令和5年4月1日から令和7年3月31日の2年間。

○委員自己紹介

○協議会成立確認

会場出席10名、リモート出席4名、委員総数20名のうち計14名出席を確認
名張市障害者施策推進協議会規則第4条に基づき、過半数を超えた出席のため、協議会は成立していることを事務局より報告する。

○会長、副会長の選出

会 長：大阪教育大学 名誉教授、大阪総合保育大学 名誉教授 守屋委員
副会長：社会福祉法人名張育成会 理事長 市川委員

○議事

(1) 新たな障害者の計画策定（第六次名張市障害者福祉計画）[概要]

(事務局)

- ・事務局より説明。

(会 長)

- ・名称が紛らわしいが、障害者福祉計画と障害福祉計画の違いを明確にご理解いただきたい。本会議は、障害者基本法に基づき総合的な計画を策定する場であるため、些細なことでも結構なのであらゆる領域を網羅したご意見を出していただきたい。

(2) 第六次名張市障害者福祉計画（案）【第2章～】

- ・第2章、第3章
- ・第4章 1. 啓発と交流の促進

(事 務 局)

- ・事務局より説明。

(会 長)

- ・年々図表が少なく文字ばかりの計画になっているので、特に強調したい部分はグラフや表を取り入れるのはどうか。また、障害者本人の基礎調査結果について、障害種別ごとの数値を入れてほしい。各分野別・課題別の検討については、小委員会で詳細に見ていく。各委員の皆様にはいずれかの小委員会に所属していただき、意見・提案を出していただきたい。
- ・障害者福祉計画のリーフレットを全戸に配布していた年があった。啓発という部分で、ホームページ掲載だけではなく、もう少し配布・周知方法の工夫が必要なのではないか。

(A 委 員)

- ・障害者福祉ガイドブックは各家庭に配られているものと同一か。

(事 務 局)

- ・障害者福祉ガイドブックは、障害者本人が受けられる制度をご案内しているもので、市役所の窓口で配布している。加えてホームページにも掲載している。各家庭にあるものは、名張市在宅医療支援センターが2年ごとに作成している医療機関についての情報が掲載されたガイドブックのことかと推察する。

(会 長)

- ・障害者スポーツ大会について、関係者だけが意見交換をされていて一般市民が現状を把握しきれていないところがある。現代はネットや電子での情報収集が主流になってきている部分があるが、ガイドブックも含めて、色々な情報を紙媒体で、全戸に配布することも検討していただきたい。また、障害福祉を学んでいる学生であっても、各市町が障害福祉に関する計画を立てていることを知らない、という現状があ

る。「こういうことをやっている」ということに直に触れてもらえるような啓発方法を考えたい。加えて、アンケート調査についても、回答の有無に関わらず、アンケートを行っているという取組を知ってもらうことが重要だと考える。

(B 委員)

- ・ガイドブックの存在を初めて知った。ホームページを見ない方も多いので、手元にあってもいつでも確認できるのが理想である。

(会長)

- ・障害者福祉計画を策定することが目的ではなく、策定した計画が市民の皆様に知れ渡ることが目的だと思う。周知方法の検討が必要である。他に何か意見・提案をお願いしたい。

(C 委員)

- ・(1) 現状と課題の部分について、現状はよく分かるが課題が見えてこない。

(会長)

- ・現段階では、現状報告のみになっている。(2) 施策の目標の根拠を(1) 現状と課題で表す必要がある。

(D 委員)

- ・障害者スポーツ大会の話題が出たので。たくさんのご協力をいただいたが、非常に残念ながら今年も開催中止となった。本来ならば今年が栄えある第20回となる予定だったが、関係者団体等における、感染と交流への対応の違いもあり、開催を見送る形となった。来年度の開催に向けて、対応策を考えていきたい。

(会長)

- ・スポーツ大会については、開催方法・時間・参加者等新たに考え直すべき部分がある。共生社会を進めていく中で、障害のある人もない人も一緒に交流できる大会の実施を目指すべき。皆で取り組んでいるという雰囲気・方向性を計画の中にも感じられるようにしたい。詳細は7. スポーツ・文化芸術活動の充実で大いに検討していく。他に何か意見・提案をお願いしたい。

(E 委員)

- ・C委員が仰ったように、課題が見えてこないというのは同意見である。また、障害者本人の基礎調査結果で気になる部分があった。「あなたは平日の昼間の時間をどのような場所で過ごしていますか」という質問項目に対して、「在宅」の回答が最多で

- あり、加えて、その現状に「非常に満足」「やや満足」との回答が多くなっている。
- ・一方で、「あなたが外出したり社会参加するうえでのバリア(障壁)をなくすために、制度や意識の面で特に力を入れていく必要があると思うものはどれですか」という質問項目に対して、「利用しやすい公共施設」に次いで「障害や病気への正しい理解の啓発」「思いやりの意識や社会のマナー」の回答が多かった。障害への理解や思いやりの面でまだまだ課題があり、それらが原因で外出をしない方がいるとも考えられるため、非常にショックを受ける回答である。したがって、環境的にも精神的にもバリアフリーが必要で、本計画やガイドブックでそういったことも啓発していかなければならない。

(会 長)

- ・障害者への理解の促進等について、教育の分野とも密接に関わってくる。詳細は4. 育成・教育の充実で議題としたいが、例えば、特別支援学級が増えている一方で担当教員の専門性については疑問が残る形となっている現状がある。特別支援学校の教員は、原則「特別支援学校教諭免許状」を有するが、特別支援学級はそうではない。学生だけに福祉教育を進めるのではなく、教育に携わる側にも障害の理解や学びが必要である。他に何か意見・提案をお願いしたい。

(B 委 員)

- ・E委員の意見にあった、日中の過ごし方として在宅が多いという件について、バス等の本数が少ないことや、金銭面のことが原因だと考えられる。

(会 長)

- ・移動面にも大きな課題があることが分かった。メイハンランド内のめばえファームでは、通所における交通手段の確保について何か取り組み等はあるか。

(F 委 員)

- ・難しい問題であると考ええる。サービスを利用したいと思ってもアクセス面で課題がある等、様々な支援が必要になっている。

(会 長)

- ・移動の問題に加えて予算のことも考慮しなければならない。行政の動きだけではなく、我々自身がどうしていけばよいのかを踏み込んで考えていく必要がある。

・第4章 2.福祉サービスの充実

(事 務 局)

- ・概要の説明。

(会 長)

- ・例えば、成年後見制度について。詳しい内容を理解している人は少ないと思う。利用のためにはそれに応じた支払いも発生してくるが、その辺りが曖昧なまま制度利用を勧めるのはどうなのか。

(E 委 員)

- ・成年後見制度にかかる支出が多く、悩んでいるという利用者の相談を受けたことがある。

(会 長)

- ・成年後見制度は一例に過ぎない。このようなことがあるため、各サービスについてももう少し深く掘り下げて検討していく必要があるのではないか。他に何か意見・提案をお願いしたい。

(G 委 員)

- ・国は子ども家庭庁を設立し、一元的にという方向性を示しているが、名張市として何か新設したり担当を置いたりする等の予定はあるのか。

(事 務 局)

- ・国からどのような指示があるのかによって対応が異なるため、現在は国の動向を見ている。

(G 委 員)

- ・福祉サービスの充実を図るのも大切だが、予算の面も考慮しなければならない。何を充実させて、何を維持していくのかを明確に記載すべきだと考える。

(会 長)

- ・本計画においては総合的に網羅していかなければならないが、必要なことの中でも再検討してくという姿勢が大切である。他に何か意見・提案をお願いしたい。

(A 委 員)

- ・(1) 現状と課題 ①相談支援体制の構築にある地域福祉教育総合支援ネットワークとは何か。

(事 務 局)

- ・例えば、8050問題や生活困窮等による、複合的な課題については、介護・高齢、

生活保護の部署だけでなく、障害等その他様々な部署が連携して対応していくことになる。さらに、市役所内だけではなく、社会福祉協議会や保健所、名張市15地域に設置しているまちの保健室、地域の方等とも連携し、総合的に考え対応していくというのが、地域福祉教育総合支援ネットワークである。また、市役所内にはエリアディレクターという肩書を持った職員を数名配置している。複合的な課題を抱えた方の支援に当たっては、エリアディレクターが会議に参加するケースも多い。

(B 委員)

- ・ごみの話題が出たので、分別についても分かりにくいことが多々ある。写真や絵等を使用した分かりやすい冊子が欲しい。年2回配布されるものもあるが、それでは難しい部分がある。

(事務局)

- ・ごみの問題に限らず、本日いただいたご意見は、障害福祉室だけでなく各関係部署にも情報共有させていただく。

(H 委員)

- ・ごみの問題に関して、数年前に全戸に一覧表が配られたことがあった。ただ、プラスチックごみは全て燃えるゴミへ等、分別方法が大きく変わってから全戸に配られていない。私自身は、ホームページから印刷するのが便利なので活用しているが、そうでない人もいる。色々な方法で情報を提供してほしい。同様に、障害者福祉ガイドブックについても、作業所数やグループホームの現状等日々変わっているため、その度に配布してほしい。また、障害者福祉ガイドブックの記載内容を工夫してほしいと思っている。割引や施設情報だけではなく、「こういう相談があれば〇〇へ」「ここでは〇〇のような活動をしています」等の記載をすることで、サービス利用に繋がるような内容にしてほしい。同時に、若年層のサービス利用も促進できるような内容で、全戸に配布してもらえると有難い。

(会長)

- ・若年層のサービス利用については、学校等に協力していただくのも1つかと思う。他に何か意見・提案をお願いしたい。

(G 委員)

- ・障害者福祉ガイドブックに関して、窓口でいつでも配布している。しかし、内容についてはもう少し改善、工夫してほしい。

(会 長)

- ・福祉のニーズを感知することは重要だが、可能不可能の線引きもあるだろう。行政ではその返答が難しい部分もあるため、本会議のような諮問機関が役割を果たしていくことが必要。長期的な目で見ても、最初にご発言いただいたように、とにかく課題を抽出することから始めていきたい。他に何か意見・提案をお願いしたい。

(G 委 員)

- ・学校教育といじめの問題に関して。障害の有無に関わらず、広い意味で向き合うべき課題だと思っている。インクルーシブ教育を推進し、子ども自身が多様性を実感することで、自殺に発展するようないじめが少なくなるのではないかと考えている。

(E 委 員)

- ・障害者は孤独で、社会の一員から削除されたような気持ちに自らなってしまう。そのため、社会の一員だということが分かるような施策を展開して行ってほしいと思う。

(D 委 員)

- ・障害者の災害時の対応について強い関心を持っている。各地で様々な災害が起きている中、要支援者の避難方法や支援方法について、本計画の中でも確認できるような内容にしていきたい。社会福祉協議会として、権利擁護・ボランティア・福祉教育等、様々なところで関わっているが、全て命あってのこと。災害時の支援についてもより充実させ、当事者がそれを実感できるような活動を進めていきたいと思う。

(A 委 員)

- ・令和5年度の障害者スポーツ大会が中止になった件に関して。これを機に、皆で知恵を出し合いより良いものに変化させていけたらと思う。開催方法や内容について新たな取組を考え、多くの人が喜んで参加できるような大会にしていきたい。

(会 長)

- ・障害者スポーツ大会の参加者に、特別支援学級の児童を追加すべきだと考える。通年通りの内容で開催するのではなく、新機軸を打ち出し、それらを計画によって明言していくべきではないか。

(事 務 局)

- ・本日頂いた意見を真摯に受け止め、当事者の方が安心して自分らしく過ごせる名張市にしていきたい。地域・企業・関係機関の皆様と協議し、取り組んでいきたいと思う。